

平成30年度 学校評価総括表

教育目標	「一人一人の子どもの自主性を育てる」を合い言葉に 1 確かな学力・健やかな体・豊かな心を育てる学校づくり 2 自他を大切に支え合う仲間作りを通じた人権教育の推進 3 学校と家庭・地域が連携し、安全で安心できる学校づくり
-------------	--

めざす子ども像	自ら学ぶ力をもつ子ども みんなのためにつくす子 心身ともにたくましい子 美しさをもとめる子
----------------	--

重点目標	○基本的生活習慣の確立 ○確かな学力と体力の向上 ○人権教育の推進 ○道徳と外国語活動の充実 ○児童のニーズに応じた特別支援教育の充実 ○健康・安全・防災教育の推進 ○教職員の育成・評価システムの充実
-------------	---

めざす学校像	明るく楽しい学校（安全で安心の健康的な学校） 思いやりのある学校（信頼に満ちた学校） 主体性のある伸びる学校（創造性豊かな学校） 地域に開かれた美しい学校（活力のある感性豊かな学校）
---------------	--

【目標・達成状況・評価】

評価（A：満足している B：ほぼ満足している C：多少不満である D：不満である）

自 己 評 価				学校評議員会評価	次年度への改善方策		
目 標	目標達成のための手立て	評価	結果と課題の分析	総合評価			
学 力 向 上	○基礎的な学力の定着を図る。	①児童にとってよくわかる授業が実践されている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に、「めあて」を提示し、児童が主体的に学習できるようにした。 気が散らないように、授業に必要なものを机の上に置かないようにし、話している人を見るなど、聞くことの指導をした。 今年度、朝の時間は、国語の学習になり、読書活動の時間がとれなかった。図書室が低学年には利用に不向きである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査や県学力状況調査の結果を分析し、苦手分野の克服を図ってほしい。 ドリル学習の時間を確保することによって、知識分野の定着を図ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「めあて」「まとめ」の他、考え方が残るノート指導の充実を図る。 学年で授業の工夫や話し合いさせ方等について相談する時間を確保する。 学級文庫（学年文庫）の充実を図り、低学年から読書の習慣をつけていく。
	○学習態度の定着を図る。	②児童は授業中、教師や友達の話をしっかり聞いている。	B				
	○意欲的に読書に取り組む習慣を身に付けさせる。	③朝の読書活動など、読書好きの児童を増やす指導を行っている。	C				
体 力 ・ 食 育	○心身の健康と体力を向上させる取り組みを積極的に行う。	④児童にとって、体育の授業が楽しいと思える授業実践ができています。	B	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態に応じた授業実践ができた。 食育タイムを掲示するなどして、食事の大切さやマナーを理解できるようにした。 毎月の保健便り及び、体育や学級活動を通して、生活習慣に関する指導を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 食は生活の基本なので、機会を捉えて効果的な指導を積み重ねてほしい。 家庭との連携の観点からも見直し、効果的な指導につなげてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事と関連させるなど、児童が目標をもって活動できるようにする。 年度当初に教職員全体での食育指導の方針を指導する。 現在の活動を継続しながら、児童の委員会活動と連携して、より充実した取り組みを行う。
	○食育指導を通して、食事の大切さを理解させ、実践化を図る。	⑤児童が残さずに給食を食べよう指導を工夫している。	B				
	○生活習慣を見直し、健康な体を作る	⑥早寝・早起き・朝ご飯等、規則正しい生活に関する指導を行っている。	B				
生 徒 指 導	○きまりを守り相手を思いやる心を育てる。	⑦学校生活のきまりやルールを守るよう指導を行い、成果が上がっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 間違った言動を適切に指導することについては、ほとんどの児童に対して一定の成果をあげている。しかし、指導に対して難しさのある児童について成果のあがる児童の実現が困難な状況も見られる。 あいさつについては大人の方からあいさつをすれば気持ちのよいあいさつがほとんどの児童から返ってくる。しかし、「自分から」という視点では、校内ではできていても家庭や地域ではあいさつできていないという児童が見られるように感じる 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童会のあいさつ運動だけでなく、学級・学年からも取り組んでほしい。 また、学校生活の中で、その場その場で機会を逃さず指導してほしい。 褒めて伸ばすことも大切にして、自尊感情の向上につなげてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今以上に指導に対して難しさのある児童に対して、教職員間で共通理解を深める場をしっかりと設け、担任を中心としながらも担任をサポートしていく厚みのある指導体制を築いていく。 校内でできてくる児童のあいさつの姿をさらに家庭や地域の場でもしっかりとできるような指導や言葉かけを続けていく。
		⑧児童の間違った言動を適切に指導する体制ができています。	B				
		⑨児童が自分から元気よく挨拶ができるよう指導を行っている。	B				

自 己 評 価				学校評価委員会評価	次年度への改善方策		
目 標	目標達成のための手立て	評価	結 果 と 課 題 の 分 析	総合評価			
人権・ 道徳教育	○いじめの未然防止・早期発見・早期解決の取り組みを進める。 ○全ての教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。 ○異年齢集団活動を通じて、思いやりの心を育てる。	⑩学校として、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。 ⑪道徳的な心情・判断力・態度が身に付くようにあらゆる機会を通して教えている。 ⑫クローバー班活動では、児童相互の絆を深める工夫した取り組みをしている。	B A A	・「いじめの現実」に対して教師の「いじめに関する感覚」が低いので、児童・保護者との認識に差があると感じる。日々、児童の表情や行動を見逃さず、小さなことにも親身に寄り添っていく態度が必要だと考える。自分たちにとって小さなことでも児童にとって本当に困っていることなので真剣にとらえたい。 ・クローバー班は異年齢で関わる機会となり、自分たちで行動し、やり遂げる達成感のある活動だと感じる。共に成長する機会となっている。 ・学校で頑張っていることがより保護者に伝わるとよいと思う。 ・児童が教師と同じくらい「いじめのない学校作り」に取り組んでいるという結果はよい方向に受け止めるべき。	A	・周りから良い行動を教える事も必要である。 ・良い事を見つける指導の工夫「良い事カード」などを積極的に活用してほしい。 ・ほめる事を大切にして、自尊感情を高める指導を行ってほしい。 ・子どもに対する教師の見方を変える事も大切ではないか。見方を変えることで子どもの違った面が見えてくると思う。	・話し合いで必ず問題解決をする。どの子にも「考えや意見」があり、トラブルの理由もある。その心をしっかり拾い上げる環境や仲間づくりをする気概が教師に必要。 ・参観日で「学校ではこんな活動をしています」という発言をしっかりとる。 ・児童の様子を少しでも学級通信に載せてみる。道徳ノート等を利用し、「こんなことをしている」と伝えることもよい。 ・通信簿にも道徳の評価を記述するようになり、保護者の関心も高まっている。機会を捉え、児童の長所を保護者と共有する機会とする。
安全 教育	○安全・安心な学校づくりを進める。 ○いざという時のために、児童に対する指導と訓練を行う。 ○児童の登下校の安全確保に努める。	⑬学校の施設・設備などの教育環境を安全に生活できるよう整えている。 ⑭不審者対策、避難訓練など安全教育に力を入れている。 ⑮児童が交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校できるよう指導している。	B B B	・保護者には衛生面が気になる人が多い。 ・職員・児童は安全学習には真面目に取り組んでいるが、保護者には伝わっていない。 ・児童は、交通ルールを守っていると思っているが、職員・保護者はまだ不十分と考えている。保護者の自由記述で交通安全教育に対する要望が目についた。	B	・時期を捉えて引き渡し訓練を実施するなどいろいろな場面を想定した実効性のある避難訓練等を実施してほしい。 ・普段の地道な指導が大切だと考える。丁寧な指導を継続してほしい。 ・施設の老朽化は避けられないが、点検を行って不備があった場合等には、迅速な対応をしてほしい。	・体育館のトイレの芳香剤は至急おく。 ・トイレを中心に清掃指導に力を入れていく。体育館のトイレや床のワックス、床のネット支柱を立てる穴など、点検・整備する。 ・学年便りやホームページなどで避難訓練実施の報告を入れるようにする。休み時間や引き渡し訓練など保護者を巻き込んだ避難訓練を来年度も実施していく。警察や消防などとの連携も必要。 ・危険な行為をした児童にはきちんと個別指導し、1年・4年の交通安全教室は従来通り実施し保護者の協力も要請する。
特別 支援 教育	○特別支援教育に関する研修を実施し、知見を高める。 ○配慮の必要な児童への具体的対応について知識を元実践に当たる。 ○児童等の相談には共感的な態度で親身に応じ、解決につなげる。	⑯特別支援教育について、保護者等に適切に情報を提供している。 ⑰特別に配慮の必要な児童への取り組みがよくできている。 ⑱児童の生活や学習等に関する悩みや相談に、適切に対応している。	B A B	・特別支援教育便りや相談事業の案内等を家庭数で配布しているが、保護者に気づかれていない場合もあるのではないか。 今年度、特別支援教育は中途入級も多く児童数が増えた。通常学級の中で支援が必要と思われる児童に対応してほしいと保護者が思っているのではないかと。（担任の先生が支援が必要な子に手がかかっている等）⑰と⑱は関連があると思われる。	B	・合理的配慮、インクルーシブ教育等様々な課題があるが、どの子にも配慮した環境づくりに努めてほしい。 ・様々な情報を分かりやすく発信し、保護者を含めた啓発に努めてほしい。	・学校からの発信に気づいてもらえるよう学年便り等を関連させる等の工夫をしたい。 ・今年度から特別支援コーディネーターが支援が必要な児童の情報を共有できるような学年毎のファイルを作成した。改善に時間を要する分野なので、引き続き相談を行ったり、教職員で情報の共有をしたりする取り組みを続けていきたい。

自 己 評 価				学校評価委員会評価	
学 校 運 営	○学校へ行くのが楽しいと答える児童の割合を高める。	①9学校は児童にとって楽しい場になっている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと感じる子どもの割合をさらに高めてほしい。 ・学校だけでなく、家庭や関係機関等との連携をさらに深め、様々な状況の子どもに対応しやすいシステムを作してほしい。 ・子ども自身が自分の良さに気づくような授業や声かけを工夫してほしい。 ・開かれた学校に向けてさらに地域との連携や協力を進めてほしい。
	○学校の情報を積極的に発信して保護者・地域と連携した学校づくりを進める。	②家庭への連絡を密にし、学校への理解を深めようと働きかけている。	B		
	○児童観察に努め、叱るだけでなく、良さを見つけて褒める指導を行う。	③児童のよさや可能性を伸ばしている。	B		
	○育成・評価システムの目標管理シートの内容を重視して取り組む。	④地域や保護者と連携し、特色を活かした教育活動をしている。	B		
		⑤職務に取り組む中で、育成・評価システム（目標管理シート）を意識している。	B		
	⑥校内研修は、質・量ともに充実している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ先生に質問したり相談したりしにくいと感じているのか、その原因を探り対応していく。 ・先生に相談したり質問したりすることで問題が解決できた経験を積むことで、聞きやすくなるのではないか。 ・学校の施設・設備については、老朽化の影響は避けられないが、連携して環境整備に努めていく。 ・学校ホームページの内容の充実に努めるとともにこまめな更新を行う。 ・育成評価システムの意義を共有し、形式的でないシートの作成を行う。 ・校内研修のテーマを絞ったり、外部講師を招聘したりして、より実践的な研修を行う。 		